

平成29年

豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会

9月28日

豊明市議会

豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会
会議録

平成29年9月28日

午後2時00分 開会

午後3時05分 閉会

1. 出席委員

委員長	杉浦光男	副委員長	村山金敏
委員	富永秀一	委員	後藤学
委員	郷右近修	委員	清水義昭
委員	蟹井智行	委員	宮本英彦
委員	ふじえ真理子	委員	近藤善人
委員	鶉飼貞雄	委員	毛受明宏
委員	近藤千鶴	委員	早川直彦
委員	山盛さちえ	委員	近藤郁子
委員	三浦桂司	委員	一色美智子

2. 欠席委員

委員	近藤ひろひで	委員	月岡修一
----	--------	----	------

3. 職務のため出席した議会事務局職員の職、氏名

議会事務局長	石川晃二	議事課長	鈴木美智雄
議事担当係長	水野美樹	議事課主査	川口真也

4. 説明のため出席した者の職、氏名

なし

5. 傍聴者

一般傍聴者 1名

午後2時開会

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 定刻に御出席いただきまして、ありがとうございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会を開会いたします。

本日の傍聴については、申し合わせに従い15名以内とし、委員長において一般傍聴者の入室を許可します。

（一般傍聴者1名入室）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 月岡議長は公務で、近藤ひろひで委員のほうからは欠席という御連絡をいただいております。

これより、本日の会議を開きます。

初めに、資料の配付確認をいたします。広聴会の取りまとめをした資料ナンバー10を修正等いたしましたので、本日正式に配付いたします。当特別委員会の資料としてよろしいですか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 異議なしと認めます。

それでは、お手元に配付いたしました議題に従い会議を進めます。

1、講演会についてを議題といたします。

講演会について補正予算を要求することに決し、9月定例会月議会で可決されました。それでは、講演会をいつ、どこで開催するか、また、そのときの講師はどなたにするかを協議していきます。

日程等については、さきの協議会及び正副委員長会で調整をしまして、11月18日土曜日の午後2時より議会報告会を開催します。その中で第1部として、午後2時から午後3時20分ごろまでを予定としまして、講演会を実施することよろしいですか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 御異議なしと認めます。

講師については、愛知学院大学法学部教授の小林明夫氏を予定しております。演題についてはまだ仮の部分ですが、住民自治と議会、議員定数、報酬の根本にあるものと、こういう中身で御連絡をいただいております。まだ仮であり予定でありますので、再度教授と今後詰めてまいりたいと思います。

このことについて、正副委員長に一任していただいております。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 御異議なしと認めます。

講演会後の市民の皆さんとの意見交換会を実施することにつきましてはいかがでしょうか。前の協議会では、講演会60分、質疑応答20分ということで皆さんと話し合いができておりますが、再度この委員会で確認をさせていただきます。いかがいたしますか。協議会で確認したようでよろしいですか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 異議なしと認めます。

アンケートについてはいかがでしょうか。協議会では実施するというので、鵜飼委員と富永委員に案をつくっていただいて、集計は早川委員ということで前に協議会で話しましたが、いけませんか。

（手伝うよの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 手伝っていただいて。そうですね、集計については早川委員を中心というふうにしましょうか。皆さんに手伝っていただいてと。特に正副委員長はお手伝いをいたします。

そういうことでよろしいですか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 異議なしと認めます。

続いて、議題の2、定数・報酬におけるデメリットの解消についてを議題といたします。講演会の日程等も協議、決定できました。講演会までの日程には余裕がありますので、デメリットの解消について協議していきます。

資料ナンバー8を見ながら進めていきます。

議員定数の増、現状維持、減に各デメリットが挙げられています。また、報酬の増、現状維持、減にも各デメリットが挙げられています。各項目ごとに議論を進めていきますので、よろしく願いいたします。

初めに、議員定数から行います。議員定数をふやした場合、現状維持の場合、減らした場合のデメリットの解消はという順番で進めていきます。では、議員定数をふやした場合のデメリットの解消方法についての御意見をいただきます。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） はい。

資料8で確認していただくことは、そこに議員定数の増については、皆さん見ておっていただけたと思いますが、4点あったと思います。

まず1つずつ、ちょっと4点読み上げてみます。

議会費が増額する。議員一人一人の責任が曖昧になる。議会の独善という批判を受ける。それから、議会の中で合意形成に時間がかかる。この4点であります。

じゃ、皆さんが考えやすいように1項目ずつ行きますよ。

議会費が増額する、このことについて、デメリットを解消するにはどんな方法があるでしょうか。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 報酬を削減すればいいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 一般的なお話にはなるかもしれませんが、議会や議員として、市の予算の適切な執行の仕方を提案し、その分を賄えるような予算状況をつくるということが必要なんじゃないかなというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今、どういうふうにしたらデメリットが解消できるかなという方策もちょっと述べていただきましたが、そういう方策等について述べていただけると、深まるかなとも思います。

そのほかありませんか、議会が増額するということについて。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、次の項目に行きますよ。

議員の一人一人の責任が曖昧になる、この点についてはどうでしょうか。ありませんか。

皆さんが発言してくださらないと、次に進んでいきます。議会の独善という批判を受ける。

富永委員。

○富永秀一委員 情報をしっかり公開した上で、また要するに、市民に納得してもらえらるぐらいの成果を見せていけば、独善だというふうには言われたいのではないかということです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。

今の項目についてございませんか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、次の項目に行きます。

議会の中で合意形成に時間がかかる。このことについてはどうでしょう。

富永委員。

○富永秀一委員 基本的なことではありますが、先ほどの一人一人の責任が曖昧になるも同じですけど、これはもう議員一人一人の自覚を持った行動によって防いでいくしかないかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほかにありませんか。

私が視点を申し上げるのは委員長としてなんですが、これを1項目ずつ皆さんで確認していきますので、例えば議会の中で合意形成に時間がかかるということ、反対から考えて、時間がかからないようにするにはどういう方策があるかというような、その方策という側面で考えると、またいい案が出るかもしれません。どうでしょうね。

富永委員。

○富永秀一委員 合意形成に時間がかかることが、一面で見れば確かにデメリットではあるんですけど、何でも早く決まればいいのかというところでもないと思われまして、しっかり多様な意見を戦わせて熟議をするというふうに考えれば、必ずしもデメリットという面だけではないのかなというふうにも思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほかございませんか。

じゃあ、今4項目で御意見をいただいておりますが、この4項目ひっくるめてでもいいですし、この関連をもってでも結構ですが、何かありましたら。

三浦委員。

○三浦桂司委員 そもそも議員増を考えていませんし、かつての陳情に対しても趣旨採択だったので、そもそも考えておりません、増員は。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 静粛に願います。

それでは、議員定数をふやした場合のデメリットの解消についてはそれまでにして、それじゃ、続けていきます。

議員定数を現状維持の場合のデメリット、すなわち2項目、資料8で挙げております。議会は改革をしていないとの評価を受ける。それから2つ目が、議会の活動が活発になると作業量が増すと、作業量がふえる、増だね、ごめんなさい。作業量が増となる。こういう2項目が挙げておりますが、このデメリットについての解消方法、ありましたら。

富永委員。

○富永秀一委員 結果だけを見ると、現状維持だった場合にそのようにとられるおそれがあるということですけども、どのような過程を経てこういう結論になったのかという情報をしっかり出していくことによって、ただ最初から現状維持ありきではなくて、きちんと議論をした上でなったんだということがわかれば、そういう評価は受けにくくなるので

はないかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今、議会は改革をしていないとの評価を受けるというような、評価というところに視点を置いて、今意見があったと思いますが、じゃ、その次の、議会の活動が活発になると作業量がふえると、作業量が増すと、増だね、増となる。このことについてはどうでしょう。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 作業量がふえることによって、議員本来の仕事をちゃんとするようになるのかなと思います。ですので、これがひいてはむしろ逆に改革のほうにつながっていくのではないのかなと私は思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。

作業量というところに着目して何か御意見ありませんか。作業量。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 さまざまな手法や通信技術とか、そういった工夫をもって改善することというのはできる。工夫は、これから先も、そういう技術の進展とかいろんなこと、要素があると思いますけど、可能性はあるんじゃないかと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 2点について見てきましたが、この2点をひっくるめて……。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 作業量がふえたとしても、今ネットとかSNSをいろいろ使って情報共有をしたりしているので、そういういろんな技術というか、新しい手法を使っていけば少しは改善できるだろうというふうに思うのと、それから、作業量がふえるということが必ず悪いということではなく、議会の活動が活発になったりすることなので、それはある反面としては議会が機能しているということにもつながるので、ふえることは必ずしもデメリットではないというふうに考えてもよいかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

現状維持の場合のデメリットの解消について、今2項目というか2点について議論をしますが、ほか、ありませんか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほかはなしと認めます。

それでは続いて、議員定数を減、減らしたと言ったほうがいいのか、減らした場合のデメリットについてを議題といたします。

3委員会定数の現状維持ができない。市民の少数意見が反映されにくくなる。多様性が

減る。立候補できにくくなる。組織がないと、新人は立候補しにくくなる。ハードルが上がる。区長等の意見を反映するには、地域には一定の議員が必要。一人一人の意見が大きくなる。個々の権限が大きくなる。以上、7点についての解消法ですが、どうでしょうか。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 3常任委員会の定数、それ自体を7ではなくて減らすのか、もしくは1委員会7人を守るのであれば、兼任せざるを得ないかな。そういうことです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほかありませんか。

後藤委員。

○後藤 学委員 委員会が必ずしも3つなければならないかということもあると思うので、2委員会にするとか、そういう方法も考えられるかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほかにありませんか。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 今、考えてる3つの常任委員会というだけではなくて、予算常任委員会とか、そういったものを新たにつくることによって、常任委員会の数としては3つかもしいないけれども、いわゆる条例の改廃を協議するような委員会とそうでない委員会と区別することによって、定数削減の構成委員の確保というか、審議内容の充実を図るということはあると思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほかありませんか。

じゃ、観点2つ目に行きます。市民の少数意見が反映されにくくなる。この点についてはどうでしょう。

早川委員。

○早川直彦委員 多分、市民の少数意見が反映されにくくなるとか、多様性が減るとか、区長等の意見を反映するには地域には一定の議員が必要、多分関連性があるのかもしれませんが、人数が少なくなったことによって声が聞きにくいとなるならば、議会から、議会広聴会とか意見交換会とか各常任委員会で所管事務の調査をするなりとか、議員の活動を活発化して、できるだけ市民の方々の意見をくみ取るという方法を使えば解決できるんじゃないかと思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほかにありませんか。

後藤委員。

○後藤 学委員 前に読んだ江藤先生の記事の中に紹介してあったと思うんですけど、委員会に議決権はないけれども、市民委員が参加すると。市民の方を委員委嘱して、それで例えば議案説明なんかもちろんとして、それで意見を出してもらって、それで議決のときは

議員だけで、議決権は議員しかないので、というような方法を取り入れているところがあるというような紹介もありましたので、そういうこともできるかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほかありませんか。

じゃ、次の項目に行ってみます。

多様性が減る。このことについてはどうでしょう。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、次に行きます。

立候補できにくくなる。

この辺の項目は、全体を見て非常に関連しておる問題もあると思いますが。

次に行きます。

組織がないと、新人は立候補しにくくなる。ハードルが上がる。この辺はどうでしょう。

立候補の問題ですが。

近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 余り選挙のことには、組織とか豊明市内にあつては、組織があるとかないとか余り関係ないように思いますので、デメリットに上がっていることが私はないと。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。

そのほかありませんか。立候補という観点から。

富永委員。

○富永秀一委員 解消法ではないんですけど、今のままだと、組織がないと新人が立候補しにくくなるということはないという意見が出たので、それはやっぱり政党の組織があるところもありますし、組織がないと新人が立候補しにくくなるというデメリットはないということはないと思いますという意見。解消法じゃないです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。

ほかにありませんか。

早川委員。

○早川直彦委員 立候補しにくいとか、新人の関係だと思うんですが、多分人数じゃなくて、自分の人生を変えようとか、そういう部分に対しては、余り人数じゃなくて、やっぱり自分の気持ちの問題だと思って、余りデメリットで云々と、また違うんじゃないかなというふうに思うんですが。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。

○山盛さちえ委員 1つは、選挙制度の問題にもなってしまうんですけども、例えば知名度のない人とか、そういった方も含めて、国政なんかだと公開討論会みたいな、ありま

すよね。そういうような感じで、候補者の考え方とか政策を市民に伝えられるような、そういう、今選挙公報が選挙の2日目、3日目ぐらいに配られますけども、そういうものとまた別の様なものが何かしつらえることができたなら、その辺は少しはハードルは下がるんじゃないかと、考えが伝わりやすいんじゃないかと。

それから、選挙公報の紙面もとても小さいですけども、例えばその紙面をもう少し大きくすることによって、それぞれの新人とか現職とか関係なく、政策とかその人の人となりというものをきちっと伝えることができるので、そういった工夫もできるのであれば1つの手段かなというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

そのほかありませんか。

近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 ちょっとよくわからないんですけども、早川さんのおっしゃったことも。自分の人生を変えるために議員には出るということもよくわからないし、そういうことではなくて、知名度とかいうのではなくて、それだけの皆さんに自分の活動とか自分の意見をわかっていただいた方が市民の代表になるわけであって、自分ひとり勝手に出るのは自由ですけども、それで議員になるということがちょっとよくわかりません。なので、それがデメリットなのかどうか、自分の人生を変えるためだけに出るのはどうなのかと思いますけど。だからわからないです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川委員。

○早川直彦委員 立候補するということは、今までの仕事をやめるか変えるとかそれだけの勇気を持って出ることだと思いますので、そういう意味で人生を変えるということの説明です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤郁子議員。

○近藤郁子委員 それに対してもそうですけども、もちろん仕事もやめて議員になっていくわけですけども、それもちょうと御理解をいただいて、支援があつて、皆さんの代表として自分になり得るかどうかということぐらいもわからずに手を挙げる方というのはいらっしゃると思います。よほどのこと。なので、そういった方々が当選できないのは普通であつて、済みません、山盛さんがおっしゃったように、公報で自分の意見を聞いていただくということも必要ですし、それを聞いていただいた上で、自分の人生を皆さんの代表として変えてもいいかどうかということは、やはり1人だけで決めることではないというふうに思います。なので、これがデメリットになるのかどうか、私はちょっと理解できません。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） この課題がデメリットになるかどうかということについては、ちょっと御意見、二、三点いただきましたが、次に行きます。

区長等の意見を反映するには、地域には一定の議員が必要。この点についてはどうでしょう。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 議員の仕事量をふやして、くまなくいろんなところからお話を聞いたりとか集約すれば、このあたりは解消されるのではないかと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。

○山盛さちえ委員 ちょっと考え方なんですけれども、この文章の中には、区に特定の議員があてがわれる的なイメージにちょっとつながるんですけれども、議会として、区や区長さんの意見を反映するための手法というふうに今改革をしているので、一人一人の議員がいかに関長さんや自分の在住している区民の意見を吸い上げるかではなくて、そうやって考えると各区に1人ずつ必要ということになってしまうので、議会として、あるいは委員会として、全体としていろんな区やいろんな住民の声をきちっと反映させるような、そういう動き方をしていくということが一番の解決策じゃないかというふうに思っています。

議会の、今まであった議長懇談会というのがあったんですけど、今期は開催されていませんけれども、改革の、条例の見直し分科会の中で、市民懇談会的な、そういった議会と市民との、団体との懇談会というのをつくっていかうかというようなことも今話し合いをしている最中なんですけども、そういったものを大いに活用していけば、区等の意見を反映することはできるのではないかなというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 前のデメリットを、資料8でデメリットを確認したときと、それから、きょうこれを再度読んでみたときにちょっと観点が違うというか、そういうことも今の意見の中からありましたけども、それはそれとして意見を言っていただければいいのかというふうに思います。

それでは、次、行きます。

一人一人の意見が大きくなる。個々の権限が大きくなる。ここについてはどうでしょう。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、7項目ありましたけども、7項目全体を通してというか、合わせて御意見がありましたらお願いいたします。

山盛委員。

○山盛さちえ委員　ちょっと今までの意見と重複しますけれども、委員会の問題などについては、やっぱり個々の努力もありますが、委員会の構成とかそういったものを抜本的に見直していくという方法で相当な部分が回避できるというふうに思います。

それから、もう一つ大きなデメリットは、やっぱり市民や区長さんたちの意見が通らなくなる、届きにくくなるという点だと思うので、これは本当に出向いていくか、それとも来ていただくか、いろんな方法で直接声を聞けるような場を可能な限りふやしていくと、そういう方法しかないというふうに思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　ありがとうございました。

それでは、次に進んでいってよろしいですか。

後藤委員。

○後藤 学委員　この前陳情があったときにも言いましたけども、人口比で見ていくと、大府市とか日進市が大体この15人に相当するくらいの人数、議員1人当たりの市民の人口が豊明が15人にした場合とほぼ同じぐらいなんですね。既にそういうことをやっている大府とか日進が非常に行政でも進んでいて、何も問題が起きているというふうには特に聞いていないので、やれるという実例があるということから、ここに書いてあることは杞憂であるというふうに私は思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　よろしかったかね。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　議員定数を減らした場合のデメリットの解消法というところで7項目が上がっておりましたが、ここ、ひっくり返して。よろしいですか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　それじゃ、次に進みます。

では、今度は報酬の問題についていきます。

議員定数の増員、現状維持、削減した場合のデメリットの解消法については取りまとめができましたので、次に、議員報酬について、増額、現状維持、減額した場合のデメリットの解消法について協議していきます。

初めに、報酬を増額した場合のデメリット。

観点として4点あります。市の負担が重くなる。独善的と批判を受ける。報酬を目的にする立候補者が出てくるのでは。議員を続けることが目的になる。以上4点ですが、この点の解消方法は。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 予算上の話でいうと、先ほどお話ししたと共通するのですが、あと、議員の報酬を目的に立候補する、議員になろうとする人が出てくるという部分に関しては、やはり一人一人の議員や候補者の人たちについて、これは有権者の方の取り組みにはなるとは思います、人物や人格というのがどういうものかというのをしっかり見きわめるような取り組みをこれまで以上に豊かに行うことによって、言い方はちょっときついですけど、あぶり出されるというか、実態に迫ることはできると、そういう工夫はできるんじゃないかなというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） どうでしょう。市の負担が重くなる。この点についてはどうですか。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 定数増のときと裏腹になるんですが、市の負担が重くなるのを解消するには、定数を減らす。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほかに。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、次の観点。

独善的と批判を受ける。これちょっとあれかな。

後藤委員。

○後藤 学委員 独善的というふうな批判を受けないようにするためには、こういうことについて十分な時間をとって市民とともに学習をし、議論をすべきだと思います。最初にそういう方針も確認がされておったと思いますが、今までの経緯を見るとそれが十分にできていないのは残念ですけれども、対策としてはそういうことをすれば独善的という批判はなくなるとは思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほかに。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、次の観点にいきますね。

報酬を目的にする立候補者が出てくるのでは。

（これは仕方ない。それぞれ個人のあれだからの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 次に行ってよろしいですか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 議員を続けることが目的になる。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 極論で申しわけないです。多選禁止。多選の禁止。

（済みませんの声あり）

○鵜飼貞雄委員 いや、済みませんじゃなくて、極論なんでごめんなさい。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 郷右近委員。

○郷右近 修委員 先ほど、済みません、フライングで発言してしまっただんですが、これも共通する部分があると思うんですけれど、その議員や候補一人一人が、例えばその選挙と選挙後の任期についてどういうテーマを持って臨もうとしているのかというところを見きわめる、もしくはそういう発行物などを通じたことで判断ができるんじゃないかというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほかにどうでしょうか。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 結局、長く何期も議員をやっている、報酬に耐え得るだけの、応えるだけの仕事をしていけば市民は問題はないわけで、そこを今、ちょっと郷さんの意見にも重なりますけれども、その人の任期4年間の仕事の評価というか、そういったことがしっかり市民に伝わるような見える化を進めていけば、単なる報酬だけを目当てとして多選するような、立候補をするようなことはしにくくなる。しても当選しづらくなるというような状況がつかれるのではないかと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 郷さんのおっしゃったことというのはもう既に行われていて、選挙自体がそういう市民も見きわめて投票していることだというふうに思いますので、報酬を増とすることとは直接関係なく、デメリット解消とかということとはちょっと違うような気がします。もう既に選挙で見きわめ、多選されていらっしゃる方も、それは多選されるということは市民から認められているということだというふうにしか取りようがないというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほかありませんか。

じゃ、次に行きますが、よろしいですか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、報酬を現状維持とした場合のデメリット。これは、観点として議会が変化したとの印象を与えられない。そ

れから、金額で現状維持になると人事院勧告も否決せざるを得ない。この2点が上がっております。どうでしょう、この点についての解消方法。

議会が変化したとの印象を与えられない。この点についてはどうですか。

後藤委員。

○後藤 学委員 先ほどの意見とほとんど同じことですが、これも議会が市民と十分に学び、共によく話し合っただけで決めるという手続を踏めば、そういうことはないだろうというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、次の観点。

金額で現状維持になると、人事院の勧告も否決せざるを得ない。この点についてはどうでしょう。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 今の私たちの報酬や期末手当の上限を据え置くような、今期中はというふうな一応期限を区切って、今条例を議会みずから提案しているので、来期のことだというふうに考えると、人事院勧告に従った条例の報酬額、期末手当に戻るというか、なるので、今後も議会みずから下げるといえるのかな、引き上げしないということを決めない限り人事院勧告を否定するようなことは起こらない。だから、みずから減額を提案するかしないかというところにこのデメリットの解消が可能か不可能かがかかっているというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか、ありませんか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、次に進めます。

報酬を削減した場合のデメリット。何項目あるのかな。次、全部ここ、読んでみますね。有能な人の参画がしにくくなる。議会のアマチュア化や深い調査ができない。経済的な問題から不正を働く可能性がある。モチベーションが下がる。多様な人が議員になるチャンスが減る。意見を反映させたり、チェックする議会の力が落ちる可能性がある。資金力がないと議員になりにくくなる。以上8項目ありますが、1つずつ見ていきます。

有能な人の参画がしにくくなる。どうでしょう。

近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 いろんなところで優秀な人に議員にならないかというお声がけをしていらっしゃる方ももちろんたくさん、いろんなところでお見受けしますが、企業に勤

めていたら、優秀な方は優秀なりの評価があって、どんどんもちろんモチベーションが上がるようなことも含めて、収入が上がってまいります。それが議員だと上がることもなく、4年ごとに保証もなくということで、家族の反対にあう方が多いというふうにも聞いていますので、ちょっと難しいかなというふうに思います。減にするときはそういうふうになるので、ごめんなさい、だから、解消というのはなかなか難しいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 似たような発言ですけど、この報酬減の場合のデメリットに関しては、総括してこれを解消する方法ってなかなか見つからないんじゃないかなと私は思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川委員。

○早川直彦委員 有能な人の参画がしにくくなると議会のアマチュア化や深い調査ができなくなるとか、資金力がないと議員になりにくくなるとか、ほかの部分も多分重複すると思うんですが、私もサラリーマン20年やっていたので、サラリーマンのときと比べると今はというとなかなか難しいところもあるんですが、平均的にすれば、議員の報酬を下げれば二足のわらじをはかなきゃ生活ができないと。幾ら報酬とは言いながらも生活はしなきゃいけないから、報酬という名の生活給には当然充てなきゃいけないのも当然あるし、だから、最低限やっぱり報酬といえども生活はしなきゃいけない部分、また、家族もいれば家族も養っていかなきゃいけない部分もありますので、デメリットを解消するにはといったら、最低限、現状維持は必要じゃないかというふうになると思うんですが。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 郷右近委員。

○郷右近 修委員 ちょっと趣旨がずれるかもしれないんですけど、議員の活動に必要な部分についてはですけど、さまざまな後援会などの政党の活動でなくても、そういった支援者の方の理解を得て活動に必要な費用の捻出を努力できる点はあるとは思いますが、ただそれは、例えば議会とか議員、そして公的な保障の工夫としているわけではなく、個々の努力になるので、それをちょっと、解消法と言えるかどうかはちょっとわからないんですが、一応実態としてはそういう中身もなくはないというのは、ちょっとお話しておこうと思いました。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 手を挙げていますか。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 なかなかこれは皆さんの賛同が得られないということも承知の上で策としてだけ申し上げますが、政務活動費の、額を下げた分そちらのほうを上乗せすると。使途とか、それから成果を正しく公表しなければならぬところにたくさん市民からの税

金を充てて、それ以外のところを、もし減らすのであれば、活動の影響が出ないようにするためには、そういう方法もないわけではない。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 今まさにちょうど山盛委員と同じようなことを申し上げようと思っていたんですが、要するに、2つ目の中の深い調査ができないという部分に関してだけ言うと、政務活動費を上げればその調査はできるようになるという、補完する形として、そういうものはあり得るということです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今、2項目めの議会のアマチュア化や深い調査ができないというところにもちょっと入っておりますが、この点についてはどうでしょうか。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 対応策としては、経済的な問題から不正を働く可能性がある、余り考えていないけど、とりあえず皆で頑張って挙げた項目なのであれですが、政治倫理条例とかを明確にしていって、そういったことを規制するあるいは、もしそういったところに及んだ場合には、厳しく処罰されるというような、規制することでしにくくなる、しなくなるという方法もあるかと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 3項目めにも入っておりますが、経済的な問題から不正を働く可能性がある、この点についてはどうでしょう。これが3つ目の問題です。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 次に行きます。

モチベーションが下がる。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 やはりこれに関しては、やっぱり全体にもう絡んでくることなので、もう個別でちょっと挙げていくのも出尽くしているのかなという気はしています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） この進め方についての御意見だと思いますが、それでは皆さんに確認しますよ。あと、まあよく似ていますが、前後してもよろしいですので、1つずつやっていきます。モチベーションが下がるということ、これ、いいですか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 次に行きます。

多様な人が議員になるチャンスが減る。

(進行の声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) これも次に行きますね。

意見を反映させたり、チェックする議会の力が落ちる可能性がある。この辺はどうでしょう。ちょっと観点が違いますよ、今までと。どうでしょう。

(進行の声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 資金力がないと議員になりにくくなる。よろしいですか。

(進行の声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それではこの7項目ひっくるめて、同じような内容が重なっておりますので、ちょっと視点が違う、見方が違うというだけで同じようなことが重なっておりますので、ひっくるめてありませんか。

(進行の声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) ないというふうに認めます。

以上で、定数や報酬を増、それから現状維持、減した場合のデメリットの解消方法について協議を終わります。

続いて、議題3、その他に入ります。

この際、委員より何かありますか。

早川委員。

○早川直彦委員 今後の、もうタイトなスケジュールですので、議会報告会の基調講演の後、どういうふうに進めていくかというのは、その辺はどういうふうに考えていくのか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) わかりました。

議会報告会の役割だとか、進行状況、その辺の問題についてはこれを閉じてから、きょうのデメリットの解消を閉じてから協議会を持ちまして確認をしたいというふうに思いますので、早川委員、よろしいですか、それで。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) ほかにありませんか。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 今、せっかく定数についても、報酬についてもそれぞれデメリットの解消方法が、実際やるやらないかは別として、考えられる可能性のあるものをみんなで今出し合ったわけですが、それを豊明市議会として、今後、定数、報酬をどうするかというその数字を決めていく中で、これを生かさないといけないものですから、今デメリ

ットの解消法としては出たけれども、現実的に豊明市議会として取り組めるのか、取り組むのか、そういったことについての協議する場がどこかで必要ではないかというふうに思っていますので、きょうでなくてもいいですが、どこかでまたお願いできればと、私はお願いします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今、山盛委員のほうからこの委員会の中でそういう提案がございましたが、どのように取り計らいますか。

だから、考えられるのは、そういうもう少しこれを実際自分の意見として、きょう出たのをちょっと形式的な面があるので、自分の意見として深める場を持つということ、それが1点。

それから、もう一つは、これから12月の最終の定数と報酬の議会での報告会に向けて進んでいくわけですが、その中でそういう機会があれば行うという、その辺の程度になると思いますが、いかがですか。何か御意見ありますか。

富永委員。

○富永秀一委員 とりあえず、現在の内部でもう1回やるというよりは、やっぱり報告会の際の専門家の話も聞いた上で、また参加された市民からの御意見も伺った上でさらに話し合っていたほうがいいかなというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 話し合って……。

○富永秀一委員 最終的な結論に結びつけると。だから、18日以降。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そうすると、富永委員、それは議会報告会の際の講演会等も聞いて、その後持つということですか、それは。持つか持たんかはクエスチョン。

○富永秀一委員 だから具体的な、最終的な結論を出す前に、もう一度そういうものも全部ひっくるめて話し合う場を持つという。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それはあるわね。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 デメリットの解消も含めて話し合う場をつくるという提案については同じなんですけど、その時期については、11月18日の講演会を聞いた後、12月議会に上程するとなると、日にち的にはかなり厳しいというふうに思います。今、9月の末なので、10月、それから11月の前半、期間がありますので、やはりその前にどこかでやっぱり話し合っておいたほうが私はよいのかなと。もう少し煮詰めておいて、今出されたデメリットに対して、いやこれは一般的にはそういう解決方法はあるけれども、豊明市議会としては難しいのではないかと。あるいは、これは取り組める可能性があるのではないかとというよう

なことをもう少し絞った上で次に臨んでいき、勉強会の後に最終結論を出すためのさらなる議論をするという、そういった進め方をやっぱりしていかないと、多分議論不足で何か数字ありきで動いていってしまうような気がするので、できれば講演会前にお願いできたらと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 今、両者の2つの意見が出ているんですけど、もし山盛委員の意見を尊重するのであれば、1回ぐらい協議会でも開いて委員間討議をするとか、実際、本当に腹の中どういうふうに思っているのか、どういうふうにしていったらいいのかというものを吐き出す機会も設けてもいいのかなというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今、鵜飼委員のほうから協議会という話が出ましたが、また委員会を持つとなると意味が違ってきますので、じゃ、ここで、委員会として山盛委員のほうからあった内容で委員会を持つか持たないかということここで……。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員にもう一度確認しますが、協議会でもいいですか。

○山盛さちえ委員 別に私は……。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、きょう今までの勉強したことなので、やっぱりずっと積み上げてはきておるとは思いますが、このデメリットの解消法ということをきょう受けて、もう一回会を持つかどうか。これは委員会なり協議会、ちょっと未定ですが、持つかどうかということでも聞きます。

後藤委員。

○後藤 学委員 協議会でも委員会でもいいんですけど、重要な議論なので、私はオープンでやるべきだと、公開でやるべきだというふうに思います。協議会ならオープンにしないとか、委員会ならオープンにするとかということではなくて。

○村山金敏委員 それでは、私の方から1つ。

やっぱり委員会ですと、委員諸氏それぞれの腹の内といたら申しわけないですけど、本音で話すこともできない部分もありますもんで、私は協議会でよろしいかなと思いますけど。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） その場合に、後藤委員のほうから協議会、オープンにしたらという問題は、それ、今までの流れの中では協議会をオープンにできないね。

それでは皆さん、やるかやらんかを皆さんに問うていいですか。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 確認したいんですが、講演会が終わった後の12月議会上程まで、先ほど山盛委員がタイトなという御意見があったんですが、その後はなしというふうなんでしょうか。

(発言する者あり)

○ふじえ真理子委員 講演会の前と後でやるかどうかを今から。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 今、委員会ですので。

(私ごとです。私ごとでの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) ありますか、意見。ない。

○ふじえ真理子委員 いいです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それでは、委員会にするか協議会にするかはさて置いて、会を持つか持たないか聞きますね。

持ったほうがいいという人。

(前なのの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) いや、時期まだわからん。時期なしで。今、時期は聞いていません。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それでは、今の採決の仕方、ちょっと一遍。徹底しておりませんでしたので、もう一度、後藤委員の主張を言ってください。

(発言する者あり)

○後藤 学委員 それは後でいいので、まず、やるかやらないか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それじゃ、やるかやらないかだけ確認しますね。

(講演会の前にするかしないかの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 講演会の前をやったほうがいいという方。

(賛成者挙手)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 多数ですので、行うことにします。

そして、協議会でやるか、委員会でやるかということについて、じゃ、ここで決めさせていただきますが、よろしいですか。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 きょうも委員会という形でやっているんですけど、残念ながら、協議会
のときよりかは発言が少ないのかなというふうに私個人的には思っておりますので、私は
協議会での開催を願っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほかにありませんか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、協議会という
ことで御異議ありませんか。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） だから、協議会はやる
ということだったから、やるということは決定しましたので、次は、委員会か協議会。それ
で今、私が聞きましたら、協議会という意見しか出ませんでしたので。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 今、委員会、協議会の違いというのは、委員会はオープン、協議会は
オープンでなくという意味合いでとっていいですか。

（議事録はないのの声あり）

○近藤郁子委員 議事録の関係ももちろんありますし。その辺の区別をはっきりして決
を
とっていただきたい。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） この特別委員会につ
いては、委員会はオープン、協議会はクローズ、オープンではありません。そういうこと
になっていますので、ここで協議会をオープンにするということについて、どういう意思
決定
というか、手続が必要かということは……。

（その流れを踏襲すればいいんですよの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ちょっと私はわかり
ませ
ん。

だから、協議会か委員会かをここで採決をとろうと思ひまして、先ほど協議会とい
う
意見しか出ませんでしたので、私は協議会でいいですかというふうにお聞きした。そ
したら、
皆さんそこで挙手が多かったという、こういう流れですが。

もう一度、それじゃ、お願いします。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員　じゃ、話がちょっと難しくなるので簡単にすると、もう今までの委員会と協議会の流れは踏襲するという形で、協議会であればクローズ、委員会であればオープンということで決をとっていただいたらどうでしょうか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　当然それはそういう前提であると思いますよ。それで、そうしたらやるということは決まりましたので、鵜飼委員にもう一度聞きます。鵜飼委員は委員会か協議会か、もう一度お願いします。

（協議会と今言ったがの声あり）

○鵜飼貞雄委員　協議会でオープンにするのかという話もありましたけども、物事を簡略化するために、今までの協議会、委員会の流れは踏襲する形で、協議会であればクローズ、委員会であればオープン、それで決をとっていただいたらどうでしょうか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　だから、僕が言ったのは、鵜飼さんの意見はどうですかと聞いたの。

○鵜飼貞雄委員　だから、協議会と言ったんです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　わかりました。

鵜飼委員のほうからは、協議会で、従来の方法で行いたいという、そういう意見が出ましたが、ほかにありませんか。

○後藤　学委員　それじゃあ、今、これまでどおりオープンの委員会かクローズドの協議会かどっちかで決をとったらどうですかという提案だよ。だから、それでいいかどうか聞いて、それでよければ採決をとればいいじゃないですか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　皆さん、従来のやり方を踏襲して、協議会でいいか、それとも委員会でいいか、これしかないじゃないですか、従来の方法は。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　それじゃ、従来の踏襲で、協議会はクローズ、それから委員会はオープン、そういうことで挙手をとりますが、よろしいですか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　それで、鵜飼委員は協議会を持ちたいと。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　それでは、鵜飼委員の言

うようによろしいですか。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 次は、それではこれを深めることについて、協議会にするか委員会にするか、御意見をいただきます。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) もうええ。じゃ、順番は協議会から行こうか。

(委員会からの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それじゃ、委員会を持ちたいという方、挙手願います。

(賛成者挙手)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 協議会を行いたいという方。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) いいよ、待て待て。もう一回きちっと取りたい。両方に手を挙げない人おるかもしれんから。協議会を持ちたいという人。

(賛成者挙手)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 多数です。それでは、協議会を持ちます。時期があるか、もう一つ。

(日にちの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 日にち。それでは、ここで一遍、いつ持つかという協議会の内容については、これを閉じてからということにしますので、きょうの委員会はここまでというふうにします。

以上をもちまして、豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会を閉会とします。

午後3時5分閉会